

通し番号	4 4 1 0
------	---------

分類番号	20-7B-22-18
------	-------------

(成果情報名) 採卵用の国産鶏の組合せ検定（平成19年え付け鶏の成績）
[要約] 優良な採卵用の国産鶏を作出するため、外国鶏(ボリスブラウン)を対照鶏として、系統間交雑種である国産鶏YA×LAの2つの系統（産卵系、濃卵殻色系）について能力検定を実施した。YA×LAの産卵系（以下、EP）、濃卵殻色系（以下、ECD）は、72週齢までの産卵率等の生産性や卵質で外国鶏と同程度と良好であった。また、EPでは産卵率が高くECDでは卵殻色が濃い傾向にあった。
(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター・畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

現在、国内で飼養されている採卵鶏のほとんどが海外で作出されており、食料の安定供給の観点から、平成17年に策定された家畜改良増殖目標のなかで国産鶏の改良増殖が重要な課題となっている。系統を保有しない本県だけで採卵鶏の改良は難しいことから、組合せ検定を通して、（独）家畜改良センターや他県と連携することで高能力な国産鶏の実用鶏の改良が可能となる。

[成果の内容・特徴]

- 1 産卵系（EP）は対照と比較して産卵率が高い傾向があり、週齢毎の産卵率も高めに推移した（図1）。
- 2 飼料要求率等の生産性、卵質では、区間に有意な差は認められなかった（表1）。
- 3 ボリスは卵殻色のb*値が産卵系より高く（ $p < 0.05$ ）、卵殻の黄色の度合いが強かった。また、卵殻色系（ECD）は、産卵系（EP）と比較すると、卵殻色が濃い傾向があった（表1）。

[成果の活用面・留意点]

多様な消費者のニーズに対応してそれぞれ特色を持った国産鶏を作出していくことは、国産鶏を普及していくための一つの戦略になりうる。

産卵系、濃卵殻色系は、それぞれ産卵率が高く、卵殻色が濃い傾向が認められた。今後も国産鶏の改良をさらに進めていくことが必要と思われた。

[具体的データ]

表1 生産性及び卵質成績（0～72週齢）

項目	1区ボリス	2区EP	3区ECD
[育成期（0～20週齢）]			
0～19週齢：			
育成率（%）	97.2 b	96.4 b	89.9 a
飼料総摂取量（g/羽）	7,827	7,800	7,867
20週齢体重（g）	1,736	1,734	1,750
[成鶏期（20～72週齢）]			
・生産性			
50%産卵到達日齢	140.0	144.0	142.0
産卵率（%）	85.4	87.4	86.2
平均卵重（g）	62.2	61.4	62.0
日産卵量（g）	53.1	53.7	53.4
飼料摂取量（g/日）	107.2	106.4	106.6
飼料要求率	2.02	1.99	2.00
生存率（%）	95.8	97.5	98.3
・卵質（36、50、64週齢時の平均）			
ハウユニット	81.7	81.6	83.9
卵殻強度（kg）	3.91	3.78	3.79
卵殻厚（mm）	0.35	0.35	0.35
卵殻重（g）	5.89	5.79	5.81
卵黄色	13.0	13.0	13.0
卵黄重（g）	16.5	16.5	16.6
卵白重（g）	41.7	41.7	41.6
卵殻重比（%）	9.20	9.07	9.09
卵黄重比（%）	25.7	25.8	26.0
卵白重比（%）	65.1	65.1	64.9
血斑出現率（%）	1.33	2.67	0.00
肉斑出現率（%）	18.67	12.00	14.67
・卵殻色（36、50、64週齢時の平均）			
L*値	60.7	61.1	59.8
a*値	17.5	17.3	17.6
b*値	28.6 b	27.8 a	28.5 ab
Δe値	51.3	50.3	51.9
Δe値：標準偏差	5.3	4.5	5.1

※同一項目内において異符号間に有意差あり（P<0.05）

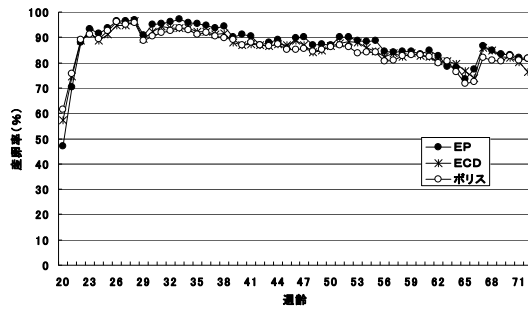


図1 産卵率の推移

[資料名] 平成20年度試験研究成績書

[研究課題名] 生産性の高い国産鶏の作出

[研究期間] 平成19～20年度

[研究者担当名] 平原敏史